

## 川崎港で見られた生きもの

### 川崎港で見られた生きものを紹介します！

- 見られた地点  
①池上運河  
②京浜運河  
③東扇島防波堤の内側  
④東扇島防波堤の外側

【海綿動物】 水深が浅い場所から深海まで、岩や海藻などに張り付いて生活します。

#### 海綿動物門

【見られた地点：①・②・③・④】  
形は円筒状、樹枝状、壺状、不規則な塊状などさまざまで、岩、海藻、人工構造物など固い基質に固着して生活します。運動神経や感覚器官はなく、多くの場合、体内に含まれる骨片や海綿質繊維の有無などで4綱に分けられます。



【刺胞動物】 クラゲ、サンゴ、イソギンチャクの仲間です。刺胞と呼ばれる、毒液を注入する針を備えた刺細胞を持っています。

#### ミズクラゲ

【見られた地点：②・④】  
傘の直径は普通 15cm 前後ですが、30cm を超す大型個体もあります。  
以前は春から秋によく見かけるクラゲでしたが、最近では一年中見られます。刺胞毒は弱いものの、人によっては炎症を引き起こします。



#### ウミサボテン

【見られた地点：②】  
小さな個体が集まった群体はこん棒状で、柔軟、のびると 50 cm 以上になります。内湾の低潮線下から 20m くらいまでの砂泥底にすみ、昼間はちぢんで（長さ 10～15 cm）砂中にかくれ、夜間砂上にあらわれます。刺激すると強烈に発光します。



#### ウミエラ目

【見られた地点：②・③】  
からだの一部を砂にうずめて、海底の砂底から直立します。ポリプと呼ばれるイソギンチャクのような形をしたものがたくさん集まり、体を構成しています。



#### ムラサキハナギンチャク

【見られた地点：②・③・④】  
開いた触手環の直径は約 25cm。本州中部～九州の内湾に生息します。海底に粘液で作った巣穴の中に住んでいます。



#### ハナギンチャク科

【見られた地点：③・④】  
海底の巣穴にすみ、そこを上下に素早く移動するという、他のイソギンチャクの仲間では考えられない特異な運動能力を備えています。



#### ウメボシイソギンチャク科

【見られた地点：②・③・④】  
体幹の直径 1～3cm、北海道から九州、全世界の温帯に広く分布します。繁殖は、小さなイソギンチャクを母体の口から吐き出すことによって行います。

